

SHIRAKOBATO

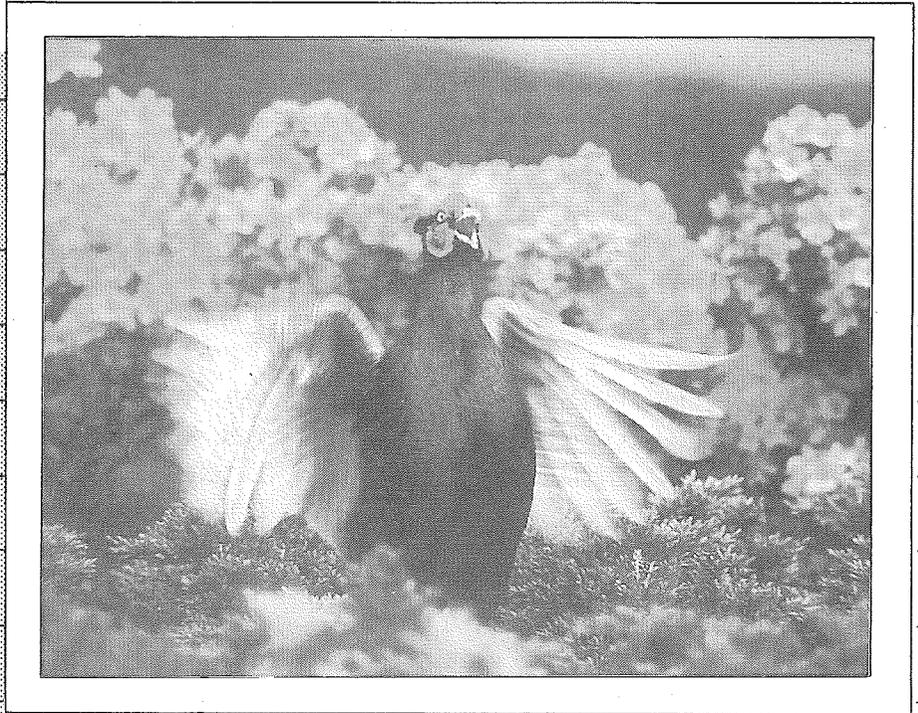
しらこぼと



1991. 3

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 82

日本野鳥の会 埼玉県支部

野鳥しゃしん考

はあと・ふおー

ブラインドについてのしつたかぶり

過去3回の「野鳥しゃしん考」を読み直してみても、われながらアホな事を書いているわいと、色白の頬をポッと桜色に染めたりしているけれども、こりずにまた書こうという根性をほめてやってください。今回はブラインドの話です。

色

やはりは迷彩色。

しかし、迷彩色というのは人間の目をごまかすためにできたもので、鳥の目にはどうなのか分からない。

鳥が基本的に安心できる色は、やはり緑色だと思う。茶色の川原や枯れ野などで、人間の目には結構目立つ緑色のブラインドでも、鳥たちは警戒しない。だから、かならずしも迷彩色でなくてもいいと思う。

形

私は2種類使い分けている。

ただ1枚だけの大きめの布の真ん中に穴をあけ、まわりにやたらにひもをつけたもの。これは軽いし、せまい藪の中などで威力を発揮する。

D社の小型多目的テントも改造して使っている(写真右)。床布がないので土足で入れるし、車を使わず全部背負って歩く私にとって、支柱も入れて2.ナンkgという軽さがあるがたい。色はモスグリーン。

張り方

長期間設置したままで、鳥たちがすっかり慣れちゃうのが理想的だが、そういう期間的なこととか、いろいろな材料を使う方法などはまた別にして、今回は、携帯式のブラインドを張る方法について。

いちばん良いのは、藪などにすっかり隠れている状態。次が、少なくとも前面には何かを利用できる張り方。それができなくても、背後に藪などを背負い、バックにまぎれるような位置を心掛けたい。藪などが近くにならないときも、遠くの林などを利用して、鳥たちの側から見て、バックが空にならないようにする。最悪の張り方は、鳥の側から見てバックが空、ブラインドの輪郭がスカイラインの上にくっきり見える状態。

O氏が、まわりに何も無い干潟に小型テントを張ったら、全然鳥が寄って来なかったとボヤいていた。そらそうだ。人の姿が見えなくても、見慣れない物がいきなりあらわれれば警戒するのは当然。たとえ迷彩色のブラインドでも、その場の「異物」になってしまっただけではいけない。あくまでも周囲に溶け込む工夫が必要だ。

ブラインドを張るために、草を踏みにじったり、枝を切ったりしないように注意するのは言うまでもない。どうしてもじゃまな枝などは、ひもで引っ張っておき、あとでもとに戻すこと。

鳥の側から見る

ブラインドを張ったら、必ず鳥の側にまわって見てみる。これで良いはずと思い込んでいたのが、意外と目立ったりする。

まず気づくのが大きなレンズ。

によっきりと特大のカニの目玉みたいのがつき出て、それが自分の動きについて動いたりしたら、きっと鳥はこわいにちがいない。私だったらこわい。

そこでブラインド内のレンズの置き方は、スリットの内側に引っ込めておくのが最も良いが、そうするとブラインドの中が狭くなるし、撮影できる範囲が限定される。いろいろな事情からかならずしも理想的な置き方はできないが、出来るだけそう心がける。

もうひとつ。ある夏の暑い日、風を通すためにブラインドの裏を大きくあけていて、なかなか鳥が近くに来ない、どうも警戒しているようなので、前にまわってみて驚いた。太陽を背負っていたので、三脚などがはっきりと透けて見える。人間の姿も良く見えていたはずだ。太陽の位置によっては、ブラインドの裏を不注意にあけてはいけない。全然隠れたことにならない。まいったまいった。

場 所

そもそもどういふところにブラインドを張ったら、鳥が近くに来てくれるのだろうか。

重い機材を背負ってテクテク歩き、ようやくブラインドを張って1日待っても、まったく鳥が寄ってこないというのは、それなりに楽しいさと負け惜しみを言っても、やはりムナシイ。

ポイントは、水場、餌場、休息場などということになるが、あわててブラインドを張るまえに、じっくり観察して、鳥たちの動きを把握することが必要だ。鳥たちにとって重要な生活の場なのだから、悪い影響を与えないよう、常に細心の注意をはらわなければならない。そのためにもじゅうぶんな観察が必要なのだ。

その上で、鳥がどういふ状態の時に、どういふ位置から、どういふ写真を撮そうとねらいをしぼり、前に書いた張り方との関連でいろいろ悩みながら、場所を決めるわけだ。悩んでいる間がまた楽しい。

視覚的な意味だけではなく、本当の意味で鳥の側に立つ感受性が不可欠なのだが、悲しい例として、ヤマセミの巣のすぐ下の川原にブラインドがいくつも並んでいるのを見たことがある。何を考えているのだろうか。決して、こういう、創造力も何もない、ひからびた人たちの仲間入りをしてはいけない。彼らのうつした写真なんて見たくもない。

ブラインドの中の品々

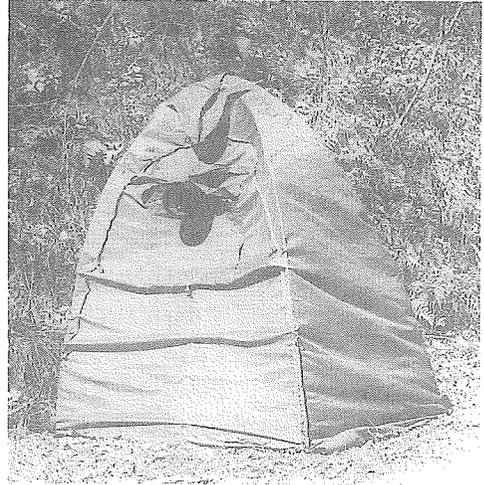
撮影機材一式 鳥が足をつつくほど近寄ることがあるので、接写リングは必需品。

携帯こしかけ 釣具屋のバーゲンで450円。弁当・飲み物 アルコールは決して持ち込まない。帰りの電車での楽しみにしておく。

文庫本 鳥が来るか来ると赤目ひきつらせているよりも、のんびり本でも読んでいて、ふと気がついたら、お、来ていたのか、じゃ写してやろうか、なんていうのがいいみたい。

ブラインドの中の生活

時には、こしかけをかたづけ横になり、昼寝なども楽しめる優雅な生活だが、いちばんの問題は、そう、あの生理的現象。



M氏が、飲み終わった紅茶の缶で済ませておいたところ、まだ飲み終わっていない缶とそれとの区別がつかなくなってしまい、多分こっちと思って自信が持てず、両方とも捨ててしまったという。

一見平穏なブラインド内の生活にも、そういう危険はあるのだ。

樹上にブラインドを張ってタカの撮影をしたプロは、空き缶に針金をつけたものをいくつも用意しておき、使用済みのものを順番に枝にぶらさげておいたという。最終的な始末はどうしたのか、聞きもらした。

私は危険はおかさない。たまってきたら、周囲の鳥たちの気配を良く確かめたくうえで、ブラインドから出て、ついでに足を伸ばすようにしている。何しろ、足が長いもので。

それでも、危機にひんすることがある。もう満タンなのに、鳥が近くに来て、出しに出るに出不れず、じっと我慢しながら、いつもとは逆に、早く遠くに行っちゃってくれと願ったりする。

野鳥撮影用に市販されているブラインドもあるし、自分で作ったブラインドを愛用している人もいる。いろいろな工夫があるけれども、ブラインドによる撮影方法は、じゅうぶんな注意をはらえば、野鳥に与える影響が少なく、間近にいっきとした姿をとらえることができる、すぐれた方法だと思う。

あなたも、膀胱耐久力を競う、腰痛仲間になりませんか。 (海老原美夫)

40 数年前の母

浅田徳次（白岡町）

利根川の昔の支流跡とわかる地形で、今は広く整理された田んぼ。「日河付」と今の地名にはない古い言葉も、土地の年寄りの間で時々話に出る所。すぐ裏の家がカシノチ（河岸の家）と、今でも屋号で呼ばれている所。そこが私の実家の地域です。

そんな所ですので、子供の頃の遊びはもっぱら魚取り。その魚が一家の貴重な栄養源だったので。どうも私の一家は、ゴイサギかコサギの亜種かもしれません。

小学校4年生くらいだったでしょう。初冬のある日、田んぼの中ほどにある水の枯れた排水路に沿って、わずかに水気の残る深場のドジョウを探し歩いていると、堀の中で小鳥が行ったり来たりしていました。

捕まえてやろうと思い、家にあった魚取り用の網を取りに行き、両側から張って追いかけて回しました。何回か網の上を飛んで逃げましたが、そのうち網にかかりました。

私は大喜びで捕まえて家に帰り、母に見せました。母は、こんなきれいな鳥、よく捕まえられたね、かしてごらんと手にとってから、私に返そうとしたとき、小鳥が逃げてしまいました。私はその時たぶん母を怒ったでしょう。何をやってもそつのなかった母が、どうして逃げられたか、私は小さいながら不思議に思ったのを覚えています。

40数年たった今になって、ちょっとしたことから、突然その謎がわかったように思いません。きかん坊の私が小鳥を捕まえて喜んでいる。かわいそうだから逃がしてやりなと言ってもきかないだろうから、自分で失敗したふりをして逃がした。多分これが真相でしょう。

しかし、今では確かめるすべもない。そんな優しい母だったからこそ、95才の天命を安らかにまっとうできたのでしょう。

40数年間、母の本当の心がわからなかった自分の鈍感さにあきれるとともに、逃げられたことによって私は救われていることに、心から母に感謝しています。

北欧、寄鳥見鳥 Part 1

林 慎一（大宮市）

一昨年まで2年間ほど仕事の都合でスウェーデンの首都ストックホルムに家族共々滞在しました。

欧州では日本と同種の鳥が意外に多いようです。同じユーラシア大陸に属するからでしょう。しかし大陸の東の端と西の端との違いから、日本では希少種であったものがこちらでは普通種であったり、なかなか楽しめます。特に私の様なずばらなバードウォッチャーにとっては有り難いことです。なにせ日本では見るために相当の努力を必要とする珍鳥が散歩がてらに見れるのですから。ところが思いもかけぬ障害にぶつかりました。4月の小雪混じりの季節も過ぎ五月に入ると快晴の日が続き、この北の国にも一斉に春がやって来ます。小鳥たちが大陸から帰ってきて、公園や郊外の森はロビンやクロウドリ、ムシクイ類の声ですばらしく賑やかになってきます。さっそく双眼鏡を手には散歩にでも出掛けたいところですが、ここで困ったことが起きました。この時期になると鳥だけでなく北欧人もみな戸外に出て日光浴を始めるのです。それも半裸に近い姿で。もちろん若い女性も多く、週末ともなるとそこらじゅうの公園や教会の庭の芝生の上でごろごろと寝そべっているのです。そんな所でうさんくさい顔をした東洋人が双眼鏡を首からぶらさげ、ウロウロしようものなら結果は目に見えています。さて困った。ところがいい手があったのです。ご存じのように北欧は先進的福祉国家です。公園などで父親がひとりで赤ん坊の世話をしている姿がよく見られます。そこで早速、一歳になるわが息子を乳母車に乗せ散歩に出掛けました。これは大成功で、怪しまれることもなくゆっくりとバードウォッチングを、ついでにヒューマンウォッチングも楽しむことができました。さらに子供から解放された家内の機嫌もいい、とまさに一石三鳥。この時期北欧へお出かけの方にはぜひこの子連れ鳥見スタイルをお薦めします。

編集部御中

諸徳寺四郎（大宮市）

『しらこぼと』を毎月いただいて、綴り込むときいつも思うのですが、表紙または裏に「綴り込み用のあなあけ機のセンターに見合う位置表示（・でもーでも良い）があると良いがなあ」と。

皆さん半分に折ってセンターを出していると思いますが、いかがでしょうか？

（編集部から ご指摘ありがとうございます。今月号から早速裏面に表示しました。）

求愛給餌

榎本秀和（鴻巣市）

春は野鳥たちにとって恋の季節。モズの求愛給餌で春の訪れを察知するのも、バードウォッチャーならではの感覚といえるだろう。

ところでウチの家内のことであるが、ある春の日のこと、モズの求愛給餌をながめながら、こんな事をのたまった。

「モズの♀はいいなァ…♡」

何ともうらやましがねそのつぶやきに

さえずりコーナー

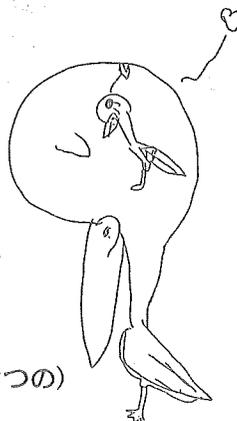
日本野鳥の会の理念

1990年3月号の『野鳥』誌で、「日本野鳥の会の理念」が発表された。

全文

人間を含むすべての生きものは、過去40億年の進化の所産であり、この地球上で等しく生存する権利をもっている。私たち人間は、同じ地球環境に生きる一員としてこれら諸生物の生命を尊重しなければならない。自然は、人間の判断を超越して善悪虚偽のない、あるがままの姿で存在している。そこに自然のもつ根源的な価値があり、それ故にこそ、自然は人間が人間らしく生きるために大切な心の糧の源泉となっている。一方、自然界は、いろいろな生物とそれをとり巻く無機環境との複雑で微妙な相互関係の上に成り立っている。人間の無謀な環境破壊によってその相互関係を乱せば、自然界全体のバランスを大きくくずし、ひいては私たち人間自身の生存をもおびやかすことになる。人間は、適切な価値判断に基

恋する
トリさん
瞳をとじて
あのコを想う



（えのもと なつの）

「俺だって、ちゃんと食べさせてやってるだろ！」

と声を荒げた私は、はたして悪い夫なのだろうか。

ごめんなさいコーナー

2月号に掲載した年賀状の内、お名前がなかったのは、1ページ（メジロ）丸山政弘、5ページ（コヨシキリ）長谷部謙二、（オオハクチョウ）手塚正義でした（敬称略）。

づき、自然を賢明に、永続的に保護し利用することによって、諸生物を含めた自然との共存をはかるべきである。

以上の基本的な認識にたち、日本野鳥の会は、野鳥を通して自然に親しみ自然を守る運動を展開していく。数ある生き物の中でも、野鳥はとりわけ人の目をひきやすく、いつでもどこでも老若男女の別なく人々の関心を呼び起こしやすい。国境を越えて渡り、大空を自由に翔ぶ鳥の姿は、万人の認める自由のシンボルである。また、野鳥は、姿や鳴き声、生態の千変万化によって人の心を和ませ、人間文化の創造の源ともなっている。野の鳥を野に守ることは、ほかの多くの生きものや、それらが生きる自然環境を守り、さらには私たち人間が安らかに暮らせる環境をつくり出すことにもつながる。日本野鳥の会は、このような考えと活動を世に広め、多くの賛同者を得て、自然と人間が共存する豊かな地球環境を創造することに貢献する。

野鳥情報

カンムリカイツブリ ◇12月1日、戸田市道満で1羽(駒崎政雄)。◇12月14日、同所で2羽(高橋達也)。

カワウ ◇1月10日、幸手市上吉羽の中川で27羽。ここでは初めてです(秋間利夫)。

アメリカコガモ ◇12月2日、戸田市道満で♂1羽(駒崎政雄)。

トモエガモ ◇12月1日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽(井上幹男)。◇12月1日、戸田市道満で♂1羽(駒崎政雄)。◇1月6日、狭山湖で♂1羽。ひとりぼっちでさみしそう(三田長久)。

トモエガモ×オナガガモ ◇12月2日、戸田市道満で♂1羽。顔はトモエガモであるが脇の白いたての線がなく、体長がオナガガモと同じくらいの大きさで、尾は長く、腰の横に黄斑があり、オナガガモの特徴が見られた(駒崎政雄)。

ヨシガモ ◇12月3日、戸田市道満貯水池でカモの群れに♂1羽(高橋達也)。◇1月5日、富士見市の柳瀬川で♂1羽(中村 治)。

オカヨシガモ ◇1月5日、志木市の柳瀬川で♂4羽、♀2羽(中村 治)。◇1月15日午後3時頃、大里郡江南町の大沼公園で60羽。この沼は湧水でもあるのか水が澄んでいて、底には水草が一面に生えています。他には、カルガモ、マガモ、オナガガモ、ホシハジロがいて、総数230羽でした(森本國夫)。

アメリカヒドリ ◇12月27日、戸田市の戸田



餌をねだるクビワキンクロ(手前)とコスズガモ(奥) 1月4日上野不忍池
(海老原美夫)

橋付近の荒川河川敷でヒドリガモ群れ中に♂1羽。1羽の♀をめぐって数羽のヒドリガモと共に争っていた。当地では2年ぶりの観察(高橋達也)。

ハシビロガモ ◇12月7日、幸手市外国府間の権現堂川で♂1羽、♀4羽(秋間利夫)。

アカハジロ ◇12月3日、戸田市道満貯水池で♂1羽(高橋達也)。◇12月16日、同所で同じく♂1羽(駒崎政雄)。

キンクロハジロ ◇1月5日、志木市の柳瀬川で♀1羽(中村 治)。

ホオジロガモ ◇12月18日、戸田市道満貯水池で♀1羽(高橋達也)。

ミコアイサ ◇12月1日、幸手市外国府間の権現堂川で3羽(秋間利夫)。◇1月6日狭山湖で♂2羽(三田長久)。

カワアイサ ◇12月23日、狭山湖で♂♀各1羽(三田長久)。

オオタカ ◇12月15日、本庄市の阪東大橋下流で若鳥、成鳥各1羽(井上幹男)。◇1月3日、坂戸市西坂戸の調整池上空で2羽のカラスがモビング(増尾 隆)。

◇1月3日、坂戸市の高麗川、城山橋上空で2羽。30羽程のカラスにモビングされて城山の森に出たり人ったりして、かわす(増尾 隆)。

ノスリ ◇12月15日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(井上幹男)。

ハヤブサ ◇11月23日、戸田市道満で1羽(駒崎政雄)。◇12月15日、本庄市の阪東大橋下流で若鳥、成鳥各1羽。このところハヤブサは、なかなか見られない(井上幹男)。

チュウヒ ◇12月29日、戸田市道満で♀1羽(駒崎政雄)。

タゲリ ◇12月31日、坂戸市入西の田んぼで3羽(増尾 隆)。◇1月1日、戸田市道満の野球グラウンドで6羽。昨年までは、干潟でかなりの数が見られたが、今年は貯水池に水が溜って、ほとんど見られなくなってしまった(高橋達也)。◇1月7日午前8時頃、吉見町前河内付近を50羽以上飛んでいた(森本國夫)。

ケリ ◇1月15日、吉見町南吉見の刈田で1

羽。他にタゲリが7羽（逸見 嶮、榎本秀和）。

ヤマシギ ◇11月12日、戸田市道満で1羽（駒崎政雄）。◇12月6日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で2羽。草原から飛び立つ（高橋達也）。◇1月20日、北本市石戸宿の農事試験場跡地で1羽（榎本秀和）◇1月20日、浦和市瀬ヶ崎で1羽（小谷野勝栄）。

ユリカモメ ◇1月3日、坂戸市の高麗川、多和田橋上空を30数羽が飛翔。当地では、ユリカモメは珍しい（増尾 隆）。

セグロカモメ ◇1月10日、幸手市上吉羽の中川で2羽（秋間利夫）。

アリスイ ◇12月24日、戸田市道満の釣り堀横の林で1羽（駒崎政雄）。

アカゲラ ◇1月19日、北本市石戸宿で1羽（吉原俊雄・早苗）。

ヒバリ（さえずり） ◇1月27日、越谷市恩間新田で（海老原美夫）。

カヤクグリ ◇12月31日、寄居町の鐘撞堂山で1羽。設置したエサ場でエサをついばむ（田口浩司）。

ルリビタキ ◇12月11日、本庄市の阪東大橋下流で♀1羽（井上幹男）。◇12月31日、寄居町の鐘撞堂山で♂1羽、♀2羽、若♂2羽。若♂2羽はナワバリ争いをしていた（田口浩司）。◇1月20日、浦和市の国昌寺付近で1羽（小谷野勝栄）。◇1月20日滑川町の森林公園で♀1羽（藤原寛治・真理）。

イソヒヨドリ ◇1月20日午後4時、熊谷市三ヶ尻の会社内の自転車置場で♂1羽。控室よりガラス窓越しに確認（山口輝雄）。

シロハラ ◇12月24日、戸田市道満の釣り堀横の林で1羽（高橋達也）。◇1月19日、



（押川歳子）

北本市石戸宿で1羽（吉原俊雄・早苗）。

ウグイス ◇1月20日、滑川町の森林公園で1羽。コナラの幹を垂直に翼をバタバタさせながら登っていく。そして地上10メートル位の所から出ている樹液を飲んでいく（藤原寛治・真理）。

キクイタダキ ◇1月10日、大宮市日進町1丁目目で2羽（森本國夫）。◇1月20日、滑川町の森林公園で2羽（藤原寛治・真理）。

エナガ ◇12月31日、寄居町の鐘撞堂山でシジュウカラとの混群。合せて40羽以上（田口浩司）。

コガラ ◇1月20日、滑川町の森林公園で1羽（藤原寛治・真理）

ミヤマホオジロ ◇1月13日午前11時、北本市石戸宿で♂1羽、♀6羽（吉原俊雄）。

アトリ ◇12月24日、滑川町の森林公園の西田沼を過ぎた、ふれあい広場付近で5羽（伊藤幸子）。◇12月31日、寄居町の鐘撞堂山で2羽（田口浩司）。◇1月19日、北本市石戸宿で1羽（吉原俊雄・早苗）。

ベニマシコ ◇12月31日、寄居町の鐘撞堂山で♂1羽、♀2羽（田口浩司）。

ウソ ◇1月1日、寄居町の鐘撞堂山で10羽群れて松の実をついばむ（田口浩司）。

表紙の写真

1991 ネイチャーフォトコンテスト入選

キジ（キジ科）

ケーンと、近くでキジの鳴き声をした。植木畑のしげみの中から急いで出てみると、30mくらいはなれた田んぼで、餌をついばみながら、こちらに近づいてくる。

植木を背にして、カメラをかまえて待つ

いると、私を無視したように立ち止まり、なんとこちらを向いて、誇らしげにポーズをとってくれた。

思わず何枚も速写してしまった。

（鈴木秀男・大宮市）

行事あんない



千葉県・谷津干潟探鳥会

期日：3月9日（土）
集合：午前9時 京葉線南船橋駅前
交通：武蔵野線北朝霞7：38、南浦和7：49
解散：午後2時ごろ
担当：杉本秀樹

見どころ：早春の干潟の鳥たち。越冬したシギ・チドリにカモ類。識別に自信のある方は、ズグロカモメ探しに挑戦。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3月10日（日）
集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9：00発または寄居8：52発に乗車
担当：諏訪隆久、岡安征也、林滋、町田好一郎、逸見嶮、諏訪夕香子、田口浩司、宮坂亨

見どころ：コハクチョウさん、さようなら。冬の間、私達を楽しませてくれてありがとう、また会おうね。若葉芽生える直前的大麻生で、冬鳥たちにお別れを。

狭山市・入間川探鳥会

期日：3月10日（日）
集合：午前9時10分 西武新宿線狭山市駅西口
交通：西武新宿線本川越駅8：56発に乗車
解散：正午ごろ、稲荷山公園にて
担当：長谷部謙二、三田長久、石井幸男

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日です。参加費は一般100円、会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、午後1時ごろになります。

- ◇フィールドマナー、いつも忘れないで◇
- ・鳥に近づきすぎたり、植物を採ったり荒らしたりしないように。細く長いおつきあいを。
- ・ゴミは、家まで持ち帰りましょう。

見どころ：すっかり春、カモの世界。すでにつがいになったもの、求愛ディスプレイをするもの等々、なかなか楽しい、カモの行動観察。入間川名物・越冬ハマシギも元気です。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：3月17日（日）
集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後、バスで現地へ）または、午前9時 浦和市立郷土博物館前
後援：浦和市立郷土博物館
担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚正義、伊藤芳晴、笠原伸子

見どころ：お久しぶり、ツバメ君。梅の香流れ、ヒバリの歌あふれる三室の里に、ツバメ、イワツバメが、元気に登場。タンポポ、ナズナなど野の花も咲き、春の雰囲気がいっぱい。

秩父市・羊山公園探鳥会

期日：3月21日（金・祝）
集合：午前9時40分 西武秩父駅前
交通：秩父鉄道熊谷8：25→御花畑9：31、徒歩5分／西武秩父線所沢8：19発快速急行に乗車
担当：海老原美夫、福井恒人、林滋
見どころ：山里に春を告げる小鳥たち。花よりもひと足早く、桜の枝々を飾るウソの頬の紅。どこかでかすかに、けれど確かに、ホーホケキョ。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：3月24日（日）

集合：午前9時 東武越生線川角駅前

交通：東武東上線川越8：33発急行→坂戸で
越生線乗換え8：49発→川角8：58着

担当：長谷部謙二、伊藤芳晴、宮内武昭、石
井幸男、佐久間博文

見どころ：高麗川の春。シジュウカラやウグ
イスが囀り始め、南からツバメやイワ
ツバメがやって来ます。気になる川角
2大名物ですが、ヤマセミは最近さぼ
りがち。カワセミは、きっと出席して
くれるでしょう。

北本市・石戸宿探鳥会

期日：3月24日（日）

集合：午前9時20分 北本観察公園駐車場

交通：北本駅西口アイメガネ前8：50発北里
メディカルセンター行きバス乗車、終
点下車。

担当：岡安征也、榎本秀和、吉原俊雄、立岩
恒久、内藤義雄、関口善孝

見どころ：旅立ち間近の冬の小鳥。春に誘わ
れ、旅に誘われたツグミやカシラダカ
が、めったに聴けない美声を披露して
くれるかもしれません。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：3月30日（土）午後1時～3時ごろ

会場：支部事務局

案内：つい、居眠りが出る春の午後、軽い作
業で気分をピリッと引き締めよう。

野鳥写真クラブ定例会

とき：3月30日（土）午後3時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：この季節、花粉症がひどくて探鳥会に
行けない方は、写真クラブのスライド
をお楽しみ下さい。

北川辺町・渡良瀬遊水池探鳥会

期日：3月31日（日）

集合：午前9時10分 東武日光線柳生駅前

交通：東武日光線栗橋8：55→柳生9：05着

担当：中島康夫、石川敏男、松井昭吾、山部
直喜、五十嵐浩

見どころ：陽光を浴びて、のんびり水鳥ウオ
ッチング。環境が変わった渡良瀬です
が、貯水池の鳥たちは健在。うらかな
春の一日、カモやカンムリカイツブ
リの群れを眺めて、リラックス。

川口市・差間探鳥会

期日：4月7日（日）

集合：午後2時45分、武蔵野線東浦和駅前

解散：午後5時ごろ

担当：手塚正義、伊藤芳晴、長谷部謙二

見どころ：たそがれ探鳥会、好評につき再登
場。長旅をひかえた冬鳥やおなじみの
里の鳥をたずね、満関の桜を愛で、ロ
マンチックな春の夕暮を楽しむ会です。
今まで探鳥会と縁のなかった、低血圧・
二日酔・夜行性の皆さん、ぜひどうぞ。

東京都・三宅島探鳥会（要予約）

期日：4月27日（土）夜～29日（日・祝）夜

集合：27日20時、浜松町駅東京寄りの改札口

帰路：東京港に29日19時20分到着の予定

費用：約18,000円（宿泊費・往復船賃・保
険等）。他に、島でのバス代若干。

定員：20名程度（先着順、県支部会員優先）

申込み：往復葉書に住所・氏名・電話番号・
年齢・性別を書いて北川慎一

まで

担当：北川慎一、草間和子

見どころ：鳥の旅へ、あなたも。アカコッコ
やイイジマムシクイ、帰りの航路では、
コアホウドリなどの海鳥。新鮮な海の
幸もたっぷり楽しめるぜいたくツアー。

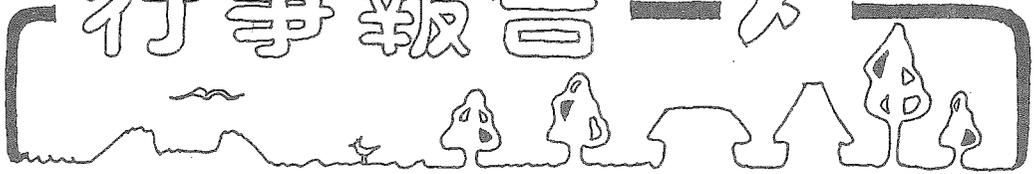
4月14日（日） 大森生定例探鳥会

4月21日（日） 三室地区定例探鳥会

注意：JRのダイヤは3月16日に改正されます。

この日以降の探鳥会は、時刻表をお確
かめの上、お出かけ下さい。

行事報告



11月11日(日) 狭山市 入間川

人 32人 天気 晴 鳥 カイツブリ ゴイサギ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ トビ イカルチドリ ハマシギ イソシギ ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) トビが飛び、白黒黄のセキレイ、大小のサギ、カワセミちらりに、イソ、ハマのシギが飛び、シメで36種の楽しい1日でした。(福井恒人)

12月23日(日) 年末講演会

人 41人 1部の、スライド映写「埼玉県支部の1年」は町田氏の味のある解説付きで、鳥、人、それぞれの姿が写された。2部は、講師の棚プロダクション未来の久保田義久氏による映画「世界のサンクチュアリー」が映写され、自然保護の立場よりの話とあいまって、感銘深かった。終了後は、支部事務所で懇親会。写真は久保田講師。(楠見邦博)



1月3日(木) 浦和市 さぎ山記念公園

人 53人 天気 曇 鳥 カワウ コサギ

アオサギ コガモ オナガガモ オオタカ チョウゲンボウ コジュケイ キジ タゲリ クサシギ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 公園の斜面でまずシロハラ。うん、よし。柿の木に群がるたくさんのツグミ、ヒヨドリなど。うむ、なかなか。田圃にはいつものとおりタゲリの群れ。よしよし。キジだ、ホオジロだ、カシラダカだ……。いそがしいな。チョウゲンボウが飛んでいる、あ、オオタカだ。ううむ、よろしい。という探鳥会でした。年の初めの恒例、探鳥会終了後、野外でのホロ酔い新年会も結構でした。(海老原美夫)

1月6日(日) 久喜市 昭和池

人 34人 天気 晴 鳥 カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ セグロカモメ キジバト ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ (27種) 今年は、例年に比べてカモが少なかったが、お目当てのトモエガモ♂が20数羽近くで見られ、初めての方も多くて、大変喜んでた。ここは、順光でしかも間近に見られるので識別の勉強にはうってつけだ。(中島康夫)

1月12日(土) 茨城県 菅生沼

人 16人 天気 雪 鳥 カワウ ゴイサギ

ダイサギ コサギ アオサギ オオハクチョウ コハクチョウ カルガモ コガモ オナガガモ コジュケイ キジ タゲリ シラコバト キジバト ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス (31種) 開始早々に雪が降り出し、予定を変更して車で各ポイントを巡った。視界が悪く、12~13種類は居るはずのカモが3種しか確認できなかった。それでも、コハクチョウは120羽位、オオハクチョウの若鳥2羽も確認できた。ハクチョウを初めて見る人も居て喜んでくれた。晴天なら50種近く見られたのに残念。(中島康夫)

1月13日(日) 熊谷市 大麻生

人 42人 天気 快晴 鳥 カイツブリ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ タカSP イカルチドリ イソシギ ユリカモメ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ トラツグミ ツグミ ウグイス ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 年末の大雨で、荒川は大きく流れを変えた。今まで、多くのカモが翼を休めていたところは急流になってしまって、カモが見にくくなった。しかし、新しくできた静かな水面では、ユリカモメがダイビングをしていた。一方、野鳥の森では、ヒガラ、トラツグミが現われた。(諏訪隆久)

1月13日(日) 川越市 西川越

人 27人 天気 晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ハイタカ コチドリ イカルチドリ タゲリ イソシギ タシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カ

シラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 初参加の人が数人居て、コゲラやコサギを見て感動していた。その姿は、最近身近な鳥を見ても感動しなくなっている人たちに、バードウォッチングを始めた頃の新鮮な気持ちを思い出させてくれた。参加者は少なめだったが、鳥のほうは……出るわ出るわ。終わってみれば41種。冬の西川越は、今や県内有数の探鳥地? (長谷部謙二)

1月27日(日) 吉見町 吉見百穴周辺

人 36人 天気 快晴 鳥 カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ オオタカ ハヤブサ タゲリ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 風は冷たかったけれど、雲ひとつない上天気。鳥は少なかったが、それなりに里の冬の鳥とカモの仲間を楽しんだ。猛禽は2種、タゲリもちらりと出て、みんなを喜ばせてくれた。ケリを見られなかったのだけがちょっと残念。(榎本秀和)

1月27日(日) 川口市 差間

人 46人 天気 晴 鳥 カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ コガモ チョウゲンボウ タゲリ セグロカモメ キジバト カワセミ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 大勢の参加者があり、中には遠く高崎からの人も。毎年必ず、この時期に、この場所に、この時間に、姿を現わしてくれるコミミズク。その低空でフワフワ飛んでいる姿は、幻に終わってしまった。参加者の皆さん、寒い中お疲れ様でした。そして、ごめんなさい!! (手塚正義)



評議員会に出席

2月9日(土)～10日(日)の2日間にわたって都内渋谷区で第11回評議員会が開催され、支部を代表する評議員：松井昭吾副支部長、オブザーバー：鈴木忠雄支部長と小林みどり幹事、理事：海老原美夫の4名が出席、平成3年度事業計画など、野鳥の会の進むべき方向についての広範囲にわたる討議が続きました。

『野鳥』誌に支部コンテストの入選作

1月号に、支部の1990ネイチャーフォトコンテスト入選作のうち、『野鳥』編集部を選んだ5枚が一挙に掲載されました。カラー2ページにわたって、ひとつの支部活動の紹介に当てられたのは初めてのことで、注目を集めています。

ビデオ取材

本部では、新しいソフト開発のため、NHKエンタープライズと協力してビデオ作成を開始、2月10日(日)狭山湖で開催された当支部の探鳥会に「バードウォッチング入門」の取材チームが訪れました。参加者・リーダーの皆さんご苦労さまでした。取材チームの人たちは、なごやかな探鳥会の様子が録画できたところでした。

講座「博物館周辺の鳥たち」

前号でご紹介した浦和市立郷土博物館主催の写真展にはマスコミの取材が相次ぎ、好評のうちに終了しました。2月9日(土)に楠見邦博幹事が担当した講座の様子は、テレビ埼玉が2月13日(水)午後5時30分から40分まで『浦和市アワー』で放映、かわいいキャスターのインタビューを受けた楠見幹事は、探鳥会よりずっと疲れたとのことでした。

求む!! 校正担当者

企画・原稿集め・編集・校正・袋づめ・発送、すべてボランティアの手で、毎月欠かさず『しらこぼと』は送り出されています。

中でも地味な存在の校正担当は、ただいま3人。お手伝いくださる方はいらっしゃいませんか。毎月ではなく、出来る月の1日か2日の限られた時間だけでも。経験は必要ありません。普通の日本語の知識があればじゅうぶん。事務局までご連絡ください。

3月の土曜日当番(2時～6時)

- 9日 藤原寛治 立岩恒久
- 16日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
- 20日 伊藤芳晴 内藤義雄
- 27日 袋づめの会(1時から)

会員数は

2月5日現在 1,527人です。

活動報告

- 1月19日 本部理事会(海老原)。
- 1月20日 役員会議(司会：伊藤芳晴、各部の報告・土曜日当番・全国野鳥重要生息地調査・関東ブロック会議・その他)。
- 1月26日 社団法人埼玉県臨床検査技師協会研修会で「野鳥と環境」講演(海老原)。



大学が休みに入ったのを利用して、九州へ鳥見に行ってきました。しかし、今回は鳥を見てもただ楽しむ気にはなれませんでした。有明海では埋立てが行なわれるとかで、名物のムツゴロウとツクシガモの先行きに不安を覚え、出水ではツルの一極集中による様々な問題などを考えさせられました。まあ、たまにはいいでしょう。難しいことを考えながらトリを見るのも。(なかむら おさむ)

『しらこぼと』1991年3月号(第82号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062
 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130
 印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)